



KAGAYAKU TSUBASA

# 輝く翼

湧別町の空に飛ぶ白鳥を見た時、私は素敵だと感動しました。「JA ゆうべつ町」が飛躍する事を願い、群れをつくり大空に羽ばたく真っ白な白鳥の様に、気持ちを新たに一致団結して前へ大きく前進する願いを込めてデザインのイメージをしました。そして皆さんが愛読するにあたって、優しく温かい気持ちになれる様にと虹の橋を架けました。先頭を飛ぶ真ん中の白鳥にはリーダーと言う意味があり、冠を付けてみました。

イメージデザイナー スワン



心

平成29年度

# 新年にあたり

湧別町農業協同組合

代表理事組合長 友澤 勇司



組合員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

御家族とともに初春を新たな希望をもって迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

昨年は多くの気象災害により苦勞の多い年となりました。4月下旬の降雪、6月の低温長雨による一番草の収穫遅延、8月の相次いだ台風の上陸による甚大な被害の発生、11月には記録的に早い積雪により収穫前のビートが雪に埋もれ、改めて近年の気候変動を感じております。

一方、農政に目を向けると、TPPの影響から国内農業の強化や規制緩和させるための農業改革の議論でありましたが、いつの間にか農協組織の理念や、事業運営を否定、生産現場を理解もせず組合員勘定制度の廃止、購買事業の縮小、全量買取販売への転換、JA信用事業の半減等、組織の弱体化を狙った内容が11月11日に規制改革推

進会議農業ワーキンググループの提言として発表されました。組合員の自主的な組織である農業協同組合の運営にまで踏み込んだ内容に、農協組織への過度な介入や、農業所得増大のため非現実的な見直しを強制されないよう、政府、与党への働きかけを行い、クミカンやJAの信用事業譲渡が削除され、JAグループの要請が反映されましたが、農業者に大きな不安を抱かせる事となり、今後規制改革推進会議の動向には注視しなくてはなりません。生乳指定団体制度の改革についても、指定団体制度の機能の重要性が示された事は評価しますが、全量無条件委託の原則から、部分委託の拡大を容認、加工補給金の交付対象が拡大、飲用、加工用途別の需給調整が成り立つ仕組みでなければ、酪農家は安心して生乳生産が出来ません。国は早急に基本的なスキームを設計し関係者の意見を聞くとしており、部分委託の場当たり利用を認めないルール設計が課題であり、酪農家の所得向上に繋がる制度改革でなければいけません。

28年の作況については、異常気象により畑作物はいずれも計画が未達となりました。小麦は収穫間近になまぐさ黒穂病が初めて確認され、蔓延防止のために29haの収穫を断念し、組合員には大変な御理解を賜りました。

ビートは4月下旬の積雪で移植が遅れ、台風以降、湿害による根腐れが発生、

平年作を3割以上も下廻る事となり、早い降雪で収穫作業にも御苦勞されました。

生乳生産は計画の7万400tを大きく超え、初の7万t台、生産基盤の充実に取り組んできた成果として、組合員の皆様の努力に敬意を表します。

28年度から生乳販売手数料を引き下げさせて頂きました。個体販売も高値で推移した事から、乳、肉とも計画を上廻りました。

生乳基盤の充実について、農協として支援を継続していく事が責務であり、各種事業を活用し、町と連携し、圃場整備、排水対策、増頭、増産への支援、後継者の営農支援に努めてまいります。懸案であった、哺育育成センターの設立については平成31年に稼働予定として今年から取り組んでまいります。安心して生乳生産に取り組む為にも、優良後継牛の確保と労働力の軽減が課題と考えます。

農協は「農民による農民の為の組織」として、自主・自立、民主的運営、相互扶助の精神のもと、組合員の営農と生活を守り、地域にとって必要とされる組織として、最大限の努力をしなければならないなりません。皆様のご協力をお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして、平穏で、豊穡の年となりますよう御祈念申し上げます、新年のご挨拶と致します。

# 謹賀新年

湧別町農業協同組合

代表理事組合長 友澤 勇司

副組合長 坂東 守

理事 上田 範幸

理事 松下 真二

理事 佐藤 茂

理事 中塚 和彦

理事 柴田 勉

理事 多田 健一

理事 野田 直人

理事 清水 昭二

理事 加藤 誠一

監事 中原 修

監事 高橋 武

員外監事

湧別町農民連盟

執行委員長 齊藤 浩一

副委員長 吉田 誠

副委員長 端場 浩

書記 山田 雄二

JAゆうべつ町女性部

部長 越智 祥子

副部長 長岡みどり

副部長 中原 秋美

JAゆうべつ町青年部

部長 如澤 厚

副部長 佐久間光紀

副部長 越智 大輔

# 新しい年を迎えて

網走農業改良普及センター  
遠軽支所 支所長 氏家 俊典



新年明けましておめでとございませう。平成29年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

平素より農業改良普及事業の推進に對しまして、農業者、関係機関の皆様には、深いご理解と温かいご支援、ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、昨年の湧別町の気象と作況を振り返りますと、春は融雪期が平年より7日早く、は種・移植作業は順調なスタートを切ることができました。特に5月は好天が続いた事から各作物とも生育が早まりました。しかしその後は気温の変化が激しく、多い降水量と日照不足から各作物とも平年並の生育状況に戻りました。また8月中旬以降は台風7号、11号、9号が相次いで北海道に上陸し、接近を含め多くの台風の影響から降水量

はかなり多く、大きな気象災害が発生しました。また11月初めには約40cmの積雪となるなど変動の激しい気象となりました。

秋まき小麦は起生期が7日早く止葉期も6日早く進みましたが、6月の低温により出穂はばらつき生育も平年並となりました。小麦に重要な登熟期間は49日間を確保できた事から収量は平年を上回り、品質も平年並を確保する事ができました。

てん菜は、は種(直播)・移植作業が早く進みましたが、土壌水分が高い中での作業により一部ほ場で活着の遅れや、直播では出芽の遅れやムラが見られました。また8月以降は台風による大雨で浸水や滞水したほ場が多く、湿害による茎葉の黄化や根部が腐敗する被害が発生し、根中糖分は低く収量も少ない結果となりました。

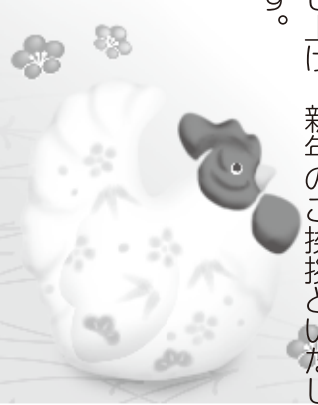
飼料用とうもろこしにおいても湿害を主因とする生育不良が見られ、草丈は平年より短く、また受粉時期の降雨の影響から雌穂に先端不稔が発生しました。その結果、生収量は平年並でしたが、雌穂の収量割合が低かったため乾物収量、TDN収量は減収となりました。

牧草は一番草はやや低収、二番草は多収となり、一・二番草を合わせると平年並の収量と品質が確保されました。

農業をめぐる情勢は、国外ではアメリカ大統領選の結果から環太平洋連携協定(TPP)の先行きが不透明となり、国内においても農業の競争力強化から農政改革を巡る議論が活発に行われるなど、今後当地域においても大きな影響が予想されます。この経営を取り巻く環境変化に対応するためには地域の皆様の繋がりをより強くするとともに地域全体で経営改善に取り組む事が何よりも重要です。

普及センターでは皆様が取り組む経営改善を支援するとともに、地域に担い手が残り、残れる農業の振興を目指し、積極的に活動を展開して行きますので、ご協力をお願いいたします。

最後になりますが、本年が豊稔の秋となり、ご家族の皆様がご健勝でありますことを心からお祈り申し上げます、新年のご挨拶いたします。



## 酪農生産部会

部会長 多田 智弘  
副部会長 鈴木 聡  
畑作生産部会

部会長 井上 豊  
副部会長 北谷 昭一  
副部会長 佐藤 輝美

## 湧別町麦生産組合

組合長 遠藤 義美  
副組合長 渡辺 豊  
副組合長 栗田 淳

## 流水とうもろこし生産組合

組合長 井上 豊  
副組合長 阿部 善夫  
副組合長 加茂 一郎

## 農業受委託連絡協議会

会長 中谷 友則  
副会長 上田 範幸  
副会長 小野 信一

## 湧別町ホルスタイン改良同志会

会長 越智 大輔  
副会長 本間 義輝

## 湧別農協青色申告会

会長 畑 亮一  
副会長 山崎 伸司

## 湧別町酪農ヘルパー利用組合

組合長理事 久保 隆幸  
副組合長理事 山崎 伸司  
組合長理事 本間 保利  
副組合長理事 多田 健一

## 湧別町乳牛検定組合

組合長理事 本間 保利  
副組合長理事 多田 健一



# 平成29年度の 年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

会長 飛田 稔章



組合員並びにJA役職員の皆様方には、ご健勝にて輝かしい平成29年の新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。

皆様方におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げます。

昨年の北海道農業は、春先からの天候不順、8月中旬から相次いで上陸・接近した四つの台風の影響により、河川の氾濫、農地の流出、関連施設の損壊、停電による生乳廃棄など、全道各地で甚大な農業被害が発生しました。

現在もその傷跡は依然として深く残っており、復旧・復興に向け

た懸命な努力が続けられているところと

今後とも、JAグループ北海道は、組合員の皆様が夢と希望を持って営農と生活が続けられる環境を整えること、地域農業とJAの発展に全力でサポートいたします。

また、全農改革を始めとする農協改革並びに指定生乳生産者団体制度のあり方を含めた農業競争力強化プログラムの取り纏め、次期米国大統領ドナルド・トランプ氏のTPP離脱・日米二国間交渉の表明、EUとのEPA交渉の動きなど、我が国の農業・JAにとって先行き不透明感が増大する情勢変化があった一年でした。

JAグループ北海道は、今後とも必要な農政運動や国民理解へ向けての情報発信、JA経営の基盤を強化し、組合員の皆様の不安を払拭し、持続可能な北海道農業の確立に向け、万全な対応を図って参ります。

さて、現在、JAグループ北海道は、第28回JA北海道大会のメインテーマである「北海道550万人と共に創る力強い農業と豊かな魅力ある農村」の実現に向けた決議事項に基づき、その着実な実践

を図っているところです。

昨年はJAグループ北海道の実践状況について、全体共有を図るとともに実践への機運を高め、JAグループ内外に実践状況を発信すべく、JA北海道大会実践フォーラムを開催致しました。

引き続き、JAグループ北海道の英知を結集し、北海道550万人から信頼され、ともに歩んでいくJAグループ北海道を目指して参ります。

関係各位の特段なるご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

一方、農業情勢では、世界規模での異常気象の発生、人口増加、経済情勢の変化などを背景に、国際的な食料の需給事情は常に不安定な要因を抱えており、我が国として、先を見据えた中で食料自給率の確保などによる食料の安全保障体制をいかに確立していくかが問われています。

言うまでもなく、農業は、食料の安定供給という、国民生活に欠かすことができない極めて重要な役割を担っている生命産業であり、その役割は未来永劫変わることはありません。

JAグループ北海道は、その責任感と自負心のもと、あらためて協同と相互扶助の精神に立ち返った中で、現下のさまざまな課題を克服すべく、力を合わせていく時であります。さらに農業・JAに対する幅広い理解と共感を得るべく道民550万人サポーターづくりの取組みを積極的に進めながら、自己改革を加速させ、長年にわたり先人が築き上げてきた本道農業並びにJAの基盤をさらに発展させ、後世に継承できるよう努力して参ります。

結びになりますが、今年の干支は丁酉（ひのと）です。

一説には、丁は、「安定する」という意味があり、酉は「果実などが成熟し実る状態」を表しているとのことでもあります。

今年は、この酉年にあやかり、天候に恵まれ実り多い安定した一年となりますよう、併せて、北海道農業並びに組合員、役職員の皆様の一層の発展を心よりご祈念申し上げます、新年にあたってのご挨拶といたします。





# 第24回

# 総会兼温泉保養

## 湧別地区年金友の会

11月10日から12日にかけて、「塩別つるつる温泉」にて定期総会兼温泉保養が開催されました。

井戸定利会長の挨拶から始まり、議長は端場栄吉氏が務め、提出議案が全件可決され、無事総会が終了致しました。

午後6時から、先輩の物故者に黙とうを捧げた後、1日目の懇親会が始まりました。毎年恒例のビンゴ大会では今年も川西の小谷喜一郎さんが名司会を務め、会場を盛り上げました。その後カラオケ大会が開催され、楽しいひと時を過ごしました。

2日目の午前中には、例年に無く早い降雪により屋外のパークゴルフは中止となりましたが、室内での輪投げなどのミニゲームや映画鑑賞、カラオケと各々が満喫しました。午後からは、恒例の花札大会を開催し、手に汗を握る激戦が繰り広げられました。  
夜には最後の懇親会ということでミニゲーム大会・花札大会の表

彰を行い、再びビンゴ大会とカラオケで楽しい温泉保養を過ごし、2次会、スナックでの3次会で沢山の美味しいお酒を頂きました。会員の皆様におかれましては、これからも元気で来年も楽しい温泉保養に行く事を楽しみに待っています。



▲各々、楽しい一時を過ごしました



▲「かんぱ〜い！！」

今総会において、役員改選が行われ4期という長期に渡り会長を務めて頂きました、井戸定利前会長が勇退し、新会長に錦町の斉藤安雄さんが選任されました。新役員は次の通りです。

- 会長 斉藤安雄 (新)
- 副会長 黒田勝雄
- 福井正雄 (新)
- 監事 鈴木紀久雄
- 草薙春雄 (新)
- 理事 東 達夫・渡辺 賢
- 押野健一・山下哲夫
- 小谷喜一郎・岩佐祐行
- 黒田紀臣・佐藤北見 (新)

## 地区別懇談会開催

11月24日から25日に湧別町農協本所と芭露支所において、平成28年度事業における経過報告及び29年度営農方針を議題とした営農懇談会が開催されました。

報告事項としては、生乳生産状況、畑作関係収量状況、牧野事業の概要、湧別町農協協育苗成センター設立案について説明し、事業実績を報告致しました。また、協議事項として、平成29年度営農経営方針の説明を行い、組合員からの出された意見を集約し、来年度に向けた営農方針を確認しました。



# 自給飼料で他酪農家と差をつける

～芭露 久保隆幸さん 農事功労者 緑白綬有功章 受章～



久保さんの受章理由としては、土作りを基にした自給飼料主体の低コスト経営や年間乳量2万kgを超える乳牛を誕生させるなど牛群改良に努めるとともに、酪農体験学習や研修生の受入れなどで地域酪農への貢献が評価されました。

11月17日、東京・赤坂で公益社団法人大日本農会より平成28年度農事功績者として、芭露の久保隆幸さんが緑白綬有功章を受章されました。

この章は農業・農村の振興発展に努め、農事改良等に挑戦された方に授与されるもので、今年度では道内の2人を含む全国49人が受章されています。

久保さんは「規則正しい時間に搾乳を行い、牛を長持ちさせることが所得拡大への第一歩なのだが、特に重要なのは親子の会話が一番大事。家族全員で集まって今後の経営について会議を開き、現在の自分の経営状態をしっかりと把握し、ノートなどに記録しておく。親は息子の酪農経営に極力口を出さず、経営主である我が子をそばで見守ってあげることも大事、子は自分自身の経営のやり方や考えがあるとと思うが、親と会話し、自分の悪い所を見つめ直し、わからない事は親にしつかりと相談する事」と、次世代の酪農を背負っていく後継者達に対しアドバイスを送りました。

# 女性部視察研修 in 十勝

～JAゆうべつ町女性部～

10月27日から28日の2日間にかけて、JAゆうべつ町女性部は部員11名で十勝方面で視察研修を行いました。

1日目はよつ葉乳業(株)十勝主幹工場と新得町の共働学舎を訪れました。

よつ葉乳業(株)では、十勝主幹工場の概要・北海道酪農・乳業のあらまし、生乳受入工程の説明を受けた後、工場内の施設見学をさせて頂きました。共働学舎では、チーズ工房を見学しながら、ブラウンスイス牛から搾られた生乳でチーズの試食をさせて頂き、帰りには各人が好みのチーズを購入しました。

2日目は、芽室町のファーマーズマーケット愛菜屋と柳月・ドリームヒルと回った後、帰路につき、2日間を通して新たな知識も得る事が出来た視察研修となりました。



# ホクレン・中央会と意見交換会

～JAゆうべつ町青年部～

12月5日、JAゆうべつ町青年部は、ホクレン農業協同組合連合会との連携強化を目的として、ホクレン北見支所と中央会の方々と交えて意見交換会を開催しました。意見交換会の内容としては、担い手確保に向けた取組状況や酪農畜産を巡る情勢等についてホクレンより報告を受け、青年部員達は現在の酪農情勢を再確認した後、ホクレン各課の課長達に肥料価格の見直し等といった意見や質問を出し、各々の思いを述べました。









# 今更なJA!

## その意義と役割

### 第一回 協同とは?

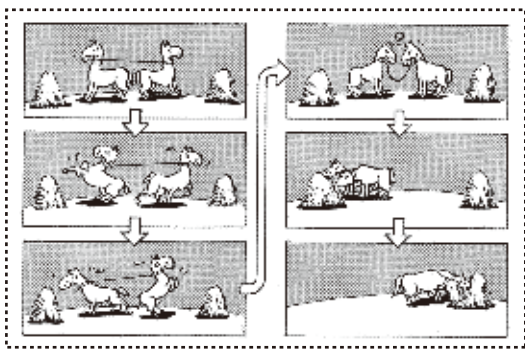
最近、マスコミ報道等でJAに対する様々な批判を耳にします。確かにJAグループとしても解決しなければならぬ多くの課題があり、その解決に向けて自ら改革を進めているところです。しかし、JAに対する批判の中にはJAのことを良く理解していない、事実無根のものが存在するのも事実です。まずは私たちのJAが果たしている意義や役割について考えてみることにしましょう。

さて、第1回目の今回は「協同」がテーマです。協同とは何でしょうか? 「共同」という言葉と読み方は同じですが、国語辞典によると、協同とは「心を一つに力をあわせて仕事をする」とあり、ここぞ心を一にするというのが大きなポイントです。

います。この絵を見たある青年部員から「今はこういう時代じゃないよ。個人としてどうするか考えるべきじゃないか」という発言がありました。その青年部員の言うものにも代えがたい大切なものではないか? という疑問が湧いてきます。

一緒に食べるだけが協同ではない、この紐を協同の力で切るという考え方もあるのではないのでしょうか?

協同の姿も時代とともに変わっていくのかもしれませんが、しかし、どんなに時代が変わっても、協同の考え方そのものは決して廃れることはないでしょう。いま協同という言葉の意味を1人を1人が考える時期にきています。



## 普及センターより

今年のサイレージ用とうもろこしの作柄について

### 1. 今年の気象概要

今年の春先は晴天に恵まれ、融雪期は平年より5〜7日早まりました。その後、5月は平年を上回る気温、日照時間で経過したため、は種期は平年より早まり出芽も順調でした。

6月以降は気温は高めに推移し積算温度が高かったことから生育は順調に進みました。しかし、降水量がかなり多かったことから排水性の悪い場所では湿害による欠株の発生や草丈がかなり短くなるなどの影響がみられました(表一)。

### 2. 今年の作柄と病害虫の発生状況

今年の収量は沿岸部と内陸部の差が大きく、また、生収量に比べてDN収量は平年に比べ減収幅が大きい傾向となりました(表二)。

三町とも重粘土壌や泥炭土壌等の排水性の悪い場所での収量減や雌穂割合の低下による栄養価の低下がみられました。一方、病害虫の発生は、

高温・多雨の気象経過から多発が心配されましたが、全体的には少なく、降雨のため収穫が遅れたほ場の一部で、すす紋病の発生が見られました。

### 3. 来年度に向けた対応

今年湿害の影響を受けた場所は、今後湿害の影響を大きく受ける心配がありますので、計画的に排水対策を行います。また、DN収量の向上のため、pH矯正や適正施肥の実施、登熟性や雌穂収量の優れた品種の選択、品種に最適な調整等を行います。

	降水量(mm)	日照時間(時間)	積算気温(°C)	融雪期(月日)
遠軽町	780(441)	877(796)	2,523(2,383)	4.8(4.13)
佐呂間町	768(460)	901(840)	2,485(2,346)	4.3(4.9)
湧別町	660(415)	879(882)	2,418(2,280)	4.3(4.10)

表2 H28年のサイレージ用とうもろこしの収量 (kg/10a)

	生収量	乾物収量	TDN収量
遠軽町	5,540(5,238)	1,566(1,559)	1,102(1,112)
佐呂間町	5,063(5,036)	1,208(1,427)	846(1,032)
湧別町	5,309(5,677)	1,209(1,348)	844(946)

注) () カッコ内は平年値 調査: 普及センター、関係機関による。

# 農協 お知らせ版

平成28年度 第10回理事会  
平成28年11月18日開催

## 報告事項

- ①オホーツク地域創生シンポジウムについて
- ②中間棚卸の結果について
- ③JA北海道フォーラムについて
- ④指定団体制度中央要請について
- ⑤対策室会議について
- ⑥湧別地区年金友の会総会・温泉保養について
- ⑦京都交流会について
- ⑧酪農生産部会役員会について

## 協議事項

- ①自己査定に係る資産評価額の設定について
- ②年末手当の支給について
- ③平成29年度営農方針(案)について
- ④組合員への年度内還元対策について

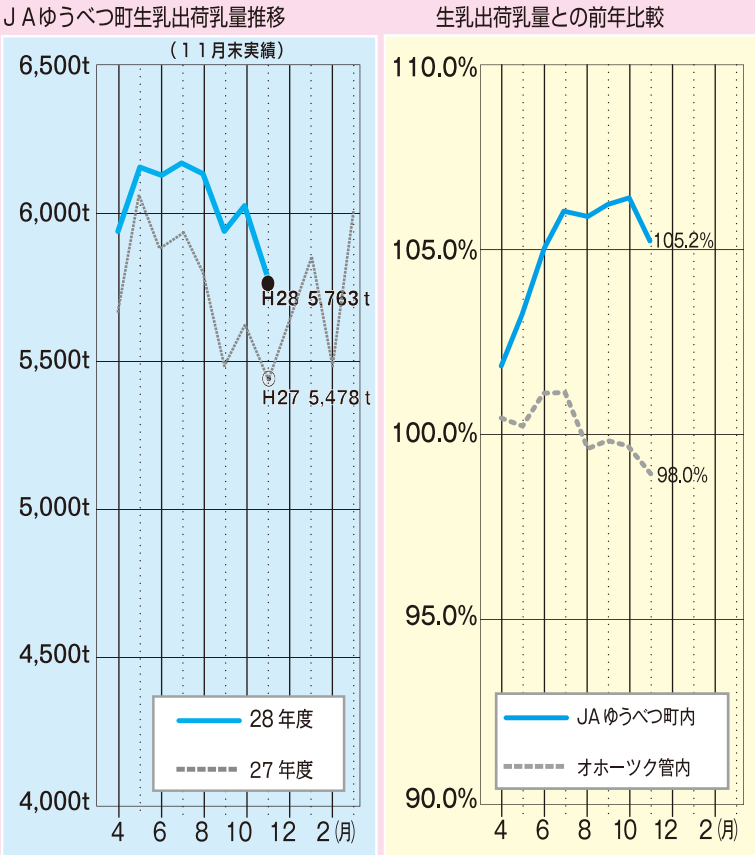
- ⑨中央要請について
- ⑩畑作生産部会役員会について
- ⑪営農・経済専門委員会について
- ⑫自由金利型定期貯金の受入れと貯金残高の推移について
- ⑬組合員の営農実績について
- ⑭平成28年10月末生乳生産実績について

## 「輝く翼」がリニューアル！ ～広報担当からのお知らせ～

今月号よりJAゆうべつ町広報誌「輝く翼」の表紙と裏表紙がカラーとなり、表紙に使用される写真も従来の白黒から、より鮮明なカラー写真となります。また、今年度より広報誌が毎月発行となりますので今後ともよろしくお願ひ致します。



## 平成28年度 生乳出荷状況について



## 年末年始業務日程 ○=業務

月日(曜日)	本支所金融(窓口)	本支所金融(ATM)	整備所・生産資材工場	事務所・生産資材	Aコープ湧別店舗	ハマスクラブ芭露店舗	湧別給油所	芭露給油所
12/28(水)	○	○	○	○	○	○	○	○
12/29(木)	○	○	○	○	○	○	○	○
12/30(金)	○	○	午前中	○	○	○	○	○
12/31(土)	休み	休み	休み	16時まで	○	午前中	午前中	○
1/1(日)	休み	休み	休み	休み	○	休み	休み	○
1/2(月)	休み	休み	休み	休み	○	○	○	○
1/3(火)	休み	休み	休み	休み	○	○	○	○
1/4(水)	○	○	○	○	○	○	○	○
1/5(木)	○	○	○	○	○	○	○	○
1/6(金)	○	○	○	○	○	○	○	○